

のびゆく長崎っ子 77

今号の
内容

- ★広島・長崎子ども会親善交歓会
- ★メディア安全指導員
- ★小島中育成協の取り組み
- ★編集後記

- ★長崎子どもゆめ体験
- ★長崎市子どもを守る条例
- ★子どもゆめフェスティバル'14



つなげ人と心 地域の輪 子どもの出番を広げよう きらめく長崎の子どもたち

中止 第38回広島・長崎子ども会親善交歓会

事前研修会を、8月3日(日)に予定していましたが、台風接近のため延期となり、翌週10日(日)に開催しました。広島で一緒に活動する、同じ班になった子どもたちが役割分担について話し合い、本番に向け準備を終え22日(金)を心待ちにしていました。

広島市において、8月20日未明に発生した土砂災害のため、**中止**となりましたが、**中止**は、広島・長崎子ども会親善交歓会が始まって以来、初めてのことです。急な中止の連絡に、「え〜。」という子どもたちの悲鳴が返ってきました。

9月6日(土)、中止となった事後研修会の代わりに「ジュニアリーダー研修会」を行い、最初に広島で亡くなられた方のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。

講師を市子連専門委員の吉村正春氏にお願いし、研修終了後、広島で着るはずだったTシャツなどを配布しました。来年も、広島市で開催予定ですので、一人でも多くのメンバーが参加出来ることを願います。研修は好評で楽しかったとの声が多くありました、ありがとうございました。



◆◆事後研修会アンケート結果◆◆

参加団員：21名

リーダーをやってみたいと思いましたか？
はい…18人 いいえ…3人

リーダーにとってなにが一番大切だと思われましたか？

- 話しを聞くこと(話のすすめかた) 9人
 - 全員をまとめること・支えること 8人
 - 思いやりや責任感、リーダーシップ 5人
 - 判断力 1人
- ※複数内容にわたる場合、それぞれ1件と数えています

その他、今日の感想などあれば自由に書いてください。

- 楽しかった 13件
 - 広島に行けなくて残念だった 6件
 - 来年も参加したい 4件
 - 面白かった 1件
 - 友達ができて(色々な人と関われて)よかった 3件
 - その他 4件
- ※複数内容にわたる場合、それぞれ1件と数えています

アンケート結果一部抜粋





子どもゆめ体験



「子どもゆめ体験」は、次世代を担う子どもたちを姉妹都市等に派遣し、現地の市民との交流の中で、人的ネットワークの拡大を図り、国際交流を推進することを目的に実施しました。長崎市内の15名の中学生が、7泊9日の日程で、オランダのライデン市（市民友好都市）やスイスのジュネーブ市へ行き、ホームステイをしたり国連を訪問して、交流を深めました。

主な研修日程	8月22日(金)	福岡前泊
	8月23日(土)	福岡空港からライデン市へ ライデン市内散策
	8月24日(日)	シーボルトハウス・国立民族学博物館見学、ホストファミリーとの引き合わせ式
	8月25日(月)	ホームステイ
	8月26日(火)	ジュネーブ市内視察、軍縮会議日本政府代表部表敬訪問・夕食会
	8月27日(水)	国連・赤十字国際委員会見学
	8月28日(木)	シャモニー見学
	8月29日(金)	アムステルダム市内視察、スキポール空港から福岡へ
	8月30日(土)	長崎着

◆ゆめ体験に参加しての感想◆

『Chanceがあったら乗っかかれ』と訪問先で度々言われ、帰国後もこの言葉が記憶に残っています。「こんな安穩な生活はいけない!何か挑戦したい!」という前向きな気持ちを持つ事を、私は研修で学びました。「時は金なり」まさに将来の進路を決めるべき今に、とても良い「きっかけ」となっています。

研修前の結団式では、田上市長から「何事にも積極的に行動して来てください」と激励の挨拶がありました。そこで私は、何が出来るだろうか?と考え「100人に恥ずかしがらず自分から話しかけて、積極的に会話を楽しもう」と「長崎から平和を発信しよう」の二つの目標を掲げました。

行く前から心が逸った研修は、8月22日午前10時、福岡空港発オランダ(アムステルダム)行きKLM機からスタートし、時空を超えて約10時間でヨーロッパに到着。それから8日間は、私は沢山の町や施設を訪問し観光地も見学しました。何もかもが新鮮で、感じる物、聞く物、見る物…。そして空気さえ吸ったことが無いような匂いで、寝ている時間がものすごくもったいなく感じ、過ぎていく時間がたまらなく惜しく感じられました。世界は広く、空も広く青いなあと実感しました。外国を一度体験しただけなのに魅惑され、「外国で暮らしてみたい!」とまでなりました。本当に楽しくて帰りたいくらいありませんでした。研修中、目標の100人まではいきませんが、40~50人と楽しく会話や写真を撮ることが出来たと思います。空港にいたスウェーデンの夫婦、買い物中のレジで前にいたオランダ人のおばさん、飛行機のファーストクラスに座っていたアメリカ人、ちょっと怖そうなドイツ人、船で仲良くなったインドの少年などなど、どれも良い思い出ばかりです。訪問先や移動中では「Excuse me? Where are you from?」と話しかけると、下手な私と友達の話にも耳を傾けてくれ、会話を返してもらいました。とても嬉しかったです。

研修の一番の思い出は初めてのホームステイ。私はホストファミリーと一緒に観光地巡りをしたり、夕食を会話をしながら食べたり、自転車に乗ったり…。途切れないくらい会話をしたり、笑い合ったことは一生の宝物です。後半では

息子(Max)に「Do you have a girl friend?」とジョークも言えるくらいまで打ち解けられました。帰国後、メールで連絡したら、「いつか長崎に来るからね!」と返事をもらいました。会える日を楽しみにしています。

そして、戦争は誰もが知っている罪悪なのに、未だに世界のどこかで殺戮が起きている事を、国連や軍縮会議、赤十字で改めて学びました。これではいけないと思うから、国連の挨拶の担当が私だったので、日本で考えてきた世界平和について英語で緊張しながら、目を見て真剣に伝えました。フングさんから、「You are powerful」と笑顔で褒められ、これが私が受けた勲章でした。私たちは、国連の平和活動の働きかけについて、帰国後、長崎市民に対して自信を持って報告できると思います。また、中学校に帰ってから、国連の平和活動を報告したところ、友達同士から平和活動に取り組もうとなりました。

研修前は、私は高校進学後大学に行き、国内線CAになれば満足でした。しかし、留学して、もっともっと勉強してから、国際線のCAになりたいと夢が変わりました。中学生が、この研修を応募する中で、誰よりも先に貴重な体験をさせてもらったから、このChanceを夢の実現に繋げたいです。そして、何年後か先の留学の時、私の大学に長崎の中学生を招きたいと思えます。感謝の気持ちを忘れず「Chanceがあったら乗っかかって」、さらに大人になった時、この研修から、私は夢の実現に向けた歩みを始めたと言えるようになっていたい。ありがとうございました。



長崎市立淵中学校3年 荒西泉帆

私は、研修旅行を終えて、大きく3つのことについて学ぶことができました。1つ目は、「暴力をなくすことは平和につながる」ことです。2つ目は、外務省とは、「世界の平和を守る世界の窓口」ということ、3つ目は、ホストファミリーとの交流を通じてわかったコミュニケーションの大切さです。まず1つ目は、スイスにある国連欧州本部に行った際に、国連の代表者から聞いた言葉です。長崎の平和の考え方は核兵器をなくすことです。私はこの2つのことを聞いて思ったんですが、核兵器と暴力は同じものだと思います。なぜかというところ、どちらも人を傷つけるものだからです。他には、長崎や広島のことを伝える掲示板がありました。世界中の人達が訪れる場所に掲載されていて、長崎に住んでいる私として原爆のおろかさに関することを伝えてくれて本当にうれしかったです。ここで私は、違う角度から平和について学ぶことができました。次に2つ目は、軍縮会議日本政府代表部に訪問した際に私が佐野大使に外務省について質問した時の大使の言葉です。この言葉が印象に残っています。外務省の名前は知っているのですが、詳しく知らなかったのも、少し世界で活躍する所のことを知れて貴重な経験になりました。そして、最後です。コミュニケーションは、時には通じ合えることができます。大変ですが、とてもすばらしいものです。なぜかというところ、この研修で様々な人達とコミュニケーションを理解したのですが、コミュニケーションは世界の人とつながれる鍵だということがわかりました。この研修で自分が成長し積極性が高められたと思います。ここで学んだことを生かして、今後世界の役に立てるような大きなことをしたいと思えます。9日間は私にとって貴重な経験であり、未来へ一歩進めるための自信ができました。



活水中学校2年 高田萌衣

ヨーロッパで過ごしたあの一週間は一生忘れることはないだろう。毎日が驚き、感動、発見の連続でとても濃密で充実した日々だった。

私たちは福岡からアムステルダムまでの直行便でオランダへ向かった。飛行機から降りるともちろん周りはみんな外国人で車のナンバーや信号機、非常口のデザインなどのちょっとしたところから日本と違う様々なものが目に飛び込んできた。そして、オランダの「空」に私は衝撃を受けた。オランダは国の大部分が平地である。そのため、空が地平線まで180度ぐるっと見わたせる。さらにそれを邪魔する高い建築物もない。私はオランダの空の広さに思わず息をのんだ。オランダに降り立って初めて、本当の空の広さを知ったのだ。今まで幾度となく見てきた空が、こんなに広く大きかったなんて、私は知らなかった。

長崎でも、街を歩いているとき時々外国人とすれ違うことがある。外国人を見かけて思うことは人それぞれあると思うが、日本では自分からは喋りかけない人が大半を占めると思う。ヨーロッパ滞在中は、現地の人から見れば自分達がその外国人ということになる。しかし、現地の人達は目が合うと微笑んでくれたり、普通に気軽に話しかけてきてくれた。中には観光客として他の国から訪れていた人もいて、簡単な英語でいくつか会話をした。とても緊張したが、話せたことが嬉しかったし楽しかった。同時に「もっと英語を話せるようになりたい。」「もっと現地の人達とコミュニケーションをとってみたい。」と強く思った。

この研修を通して、自分の中の「世界の狭さ」を感じた。「世界」を知ることは面白い。私には知らないことがたくさんある。これからたくさんを知りたい。この身で感じたいと思った。私ももっと自分の中の「世界」を広げたい。

長崎市立西浦中学校3年 井上絢子

